さわやか

令和８年６月３０日（火）
静 岡 大 学 教 育 学 部
附 属 静 岡 小 学 校
１年 学年だより Ｎｏ．５

その子ならではの「さわやか」な気付きとともに

小学校の時程に慣れ、伸び伸びと学びや活動に向かう子どもの姿はとても素敵です。体育で様々な体の使い方や動きにふれることを願って行った「忍者修行コースをつくって修行しよう！」では、学校にある様々な体育用具を自由に使って、７人グループで自分たちだけのオリジナル忍者修行コースを作りました。あるチームは作成開始の合図とともにすぐに用具の周りに集まり「どんな道具があるのかなぁ。みんなでまずは見てみよっか」とある子が声を掛け「いいねいいね♪」という仲間の反応によって用具確認を始めます。「このコーンはジグザグ修行にいいじゃん！」「これさ、倒したらジャンプ修行に使えるよ」「すごい！じゃあ僕、遠くにジグザグ作るから、〇〇ちゃんはジャンプゾーン作って！」と合意形成を図りながら作っていきます。またあるグループは開始と共にそれぞれが思うままに活動をはじめ、会話することなく自分のやりたいことを黙々と作業していきます。しかしあるタイミングで「えー！！なにそれ！！すっごーい！」と大きな声が聞こえます。どうやら夢中に作業していたある子が別の子どものアイデアに気付き、その面白さに感嘆の声を上げたようです。その大きな声にグループの仲間が気付き、「なになに！？」と集まっていきます。「えー！〇〇ちゃん！すっご！それいっぱいコースにつくろうよ！」と偶発的なつながりから友達との関係を深め、グループのコーステーマにまで至っていきました。実際にコースを味わってみる活動に移ると多くの子が「ここ難しいなぁ」「カクカク曲がるの楽しい！」と動きに対する気付きを口々にしながら運動を楽しむ中、一人の子はゴール位置に立ってスタートする友達に合図を出したり、修行の説明をしたりしています。その子に「どうしたの？」と声を掛けると「私ね、アイス屋さんになりたいんだ。だからね、（大人になった時に）こんなケーキですよ、ってお話しできたり、お客さんにいっぱい喜んでもらえたりするように、私の修行コースも遊びに来てくれた友達にそうしてあげたいんだ♪」と話をしてくれました。もちろん運動に関わる体験をしているのですがその傍らで同時に、ひとえに体育と括り切れない気付きや思いを、学校という場だからこそ、その仲間との活動だからこそのものとして得ていました。

川遊び遠足に行った際、子どもの遊ぶ様子を見ている私のそばに来たある子が「先生、水って重たいんだね。ふかーいところだと重たい水が私の足をぐんぐん押してくるよ」と声を掛けてくれました。「本当だね。水って重いんだね。川に入るとすごく感じるね」と返すと「でもね、見て。こうやって手で掬うと全然重たくないんだよ？流れてないと重くないのかなあ」と子どもならではの視点で様々な「重さを試す」実験を行い始めました。またある子は「先生、見て見て！」と、捕まえたカエルを見せてくれました。それはまだ尾が残った、カエルの姿になったばかりの姿をしていました。「すごい！捕まえたんだね」と声を掛けると、その子は私にそのカエルの姿の変容の過程を「えへへ、このカエルさ、まだ入学式だね」と笑顔で話し、嬉しそうに水にかえしてあげていました。川という非日常の中で、新鮮な気付きを得て自然を体験的に理解したり、心動かされるものを目にしてその子の中にある素敵な言葉の表現を実現させたりする姿に感動しました。

「さわやか」の子どもは、学校という新たな環境を楽しみ、そして頑張りながら大きく「さわやか」な成長を遂げています。その過程では時に負の感情をもったり、悩んだりしたりすることもあるのが当たり前です。しかし、あたたかなご家庭の支えによって、学校という場を子ども自身で充実させることができています。夏休みが迫ってきました。気温の上昇よる体調の変化に気を付けながら、元気に、そして「さわやか」に日々を過ごす子どもとの営みを大切にしていきます。